

〔練習問題〕

次の文章を読んで問いに答えよ。

昔も、かかりけること多く侍りけるなかに、極楽寺・法性寺ぞいみじく侍るや。芹河の行幸せしめたまひけるに、昭宣公、童殿上にて仕うまつらせたまへりけるに、帝、琴をあそばしける。この琴弾く人は、別の爪つくりて、指にさし入れて (A) 弾くことにて侍りし。さて持たせたまひたりけるを、落としおはしまして、大事に思し召しけれど、またつくらせたまふべきやうもなかりければ、さるべきにてぞ思し召しよりけむ、おとなしき人々にも仰せられずて、幼くおはします君にしも、「求めてまるれ」と仰せられければ、御馬をうち返しておはしましたけれど、いづくをはかりともいかでかは尋ねさせたまはむ。見つけてまゐらせざらむこと (3) といみじく思し召しければ、これ求め出でたらむ所には一伽藍を建てむと、願じ思して、求めたまひけるに、出できたる所ぞかし、極楽寺は。幼き御心に、いかでか思し召しよらせたまひけむ。さるべきにて御爪も落ち、幼くおはします人にも仰せられけるにこそは侍りけむ。さて、やむこと (4) なくならせたまひて、御堂建てさせにおはします御車に、貞信公はいと小さくて具したてまつりたまへりけるに、法性寺の前わたりたまふとて、「父こそ。こここそ、よき堂所なめれ。ここ

〔出典〕

『大鏡』・道長上

〔重要語句〕

- ◎侍り
- いみじ
- 行幸
- ◎仕うまつる
- ◎あそばす
- さるべき
- ◎思し召しよる
- おとなし
- ◎まるる
- ◎仰す
- おはします
- いかで
- ◎まゐらす
- ◎思す

に建てさせたまへかし」と聞こえさせたまひけるに、いかに見てかくいふらむと思して、さし出でて御覽ずれば、まことにいとよく見えければ、幼き目にいかでかく見つらむ、さるべきに

(B) あらめと思し召して、「げにいとよき所なめり。汝が堂を建てよ。われはしかじかのことまのありしかば、<sup>(注)</sup>そこに建てむざるぞ」と申させたまひける。さて法性寺は建てさせたまひしなり。

(『大鏡』による)

(注) ○かかりけること——ここでは、寺院の建立を發願することをいう。

○芹河——山城国紀伊郡下鳥羽(現在の京都市伏見区下鳥羽)あたりを流れていた川。

○昭宣公——藤原基経(八三六～八九二)。

○帝——仁明天皇(八一〇～八五〇)。

○貞信公——藤原忠平(八八〇～九四九)。基経の四男。

問一 傍線の箇所(ア)(イ)(ウ)を解釈せよ。

(ウ)	(イ)	(ア)

- やむことなし
- 具す
- げに